

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名		情報学研究科/ 経営管理大学 院	カテゴリー	マネジメント・キャリ ア・研究者倫理科目 群	横断 区分	文理横断型			
授業科目名 (英訳)	イノベーションと情報 (Innovation and Information)			講義担当者 所属・職名・ 氏名	情報教育推進センター・ 経営管理大学院・ 特定准教授・前川佳一		開講 場所	吉田南 共南 21			
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講期	前期	曜時限	木5限 (16:30-18:00)	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
研究や技術開発に関する理論を、情報活用につながるよう体系的に概観する。したがって受講者は文系・理系を問わず、また製造業志望・非製造業志望も問わない。											
【研究科横断型教育の概要・目的】											
広い視野と新しい学問領域を創造する能力(俯瞰力と独創力)をもつ大学院生を養成する授業科目である。											
経済学や経営学(経営戦略、経営組織、マーケティングなど)の基礎知識があれば望ましいが、そうでない場合も履修に支障を来すことはない。											
〔到達目標〕											
主として企業で行われる技術開発を、経営学のコンテキストで整理し、体系化したものとして理解する。											
履修生は、技術系であろうと非技術系であろうと、また製造業志望であろうと非製造業志望であろうと、経営学の基本的な概念や用語についての理解を得る。さらには、履修生それぞれにとってのイノベーションや価値創造の背景や論理として、深い理解を得ることをより高い目標とする。											
〔授業計画と内容〕											
各回のテーマやトピックスは、イノベーションや価値創造の背景や論理が理解できるよう、また、経営学の諸理論と技術開発との関連がよく理解できるよう選択してある。たとえば、											
<ul style="list-style-type: none"> ・中央研究所の意義、 ・「研究」・「開発」分類、 ・製品アーキテクチャ論、 ・マーケティングと技術開発、 ・ナレッジマネジメントと技術開発、 ・戦略論と技術開発、 ・経営組織と技術開発、 ・日本型経営と日本人論、 ・技術者の倫理、 											
などなど。											
受講者には、2回目以降、毎回、配布資料を読んで授業にのぞみ、積極的に発言することが期待される。											
イントロダクション (第1回)											
・イノベーションとは ・経営とは ・自然科学と社会科学											
パラダイム～科学の構造 (第2回)											
・『科学革命の構造』 ・『科学的発見の論理』											
中央研究所の成立と今後 (第3回)											
・『中央研究所の時代の終焉』 ・コーポレート R&D とディビジョン R&D											
・OECD による定義 ・セレンディピティー ・リニアモデルと連鎖モデル											
「オープンイノベーション」 (第4回)											
・オープンイノベーションとクローズドイノベーション											
「パズル理論」 (第5回)											
・技術者と事務系社員の技術観の相違											
・技術への投資の意思決定の実際											
「イノベーションのジレンマ」 (第6回)											
・『イノベーションのジレンマ：技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』											
マーケティングと技術開発 (第7回)											
・「マーケティング近視眼」											
・STP(Strategy/Target/Positioning)マーケティング											
ナレッジマネジメントと技術開発 (第8回)											
・知の伝達の成否・コンカレントエンジニアリング											

<p>中間まとめと演習 (第9回)</p> <p>経営戦略論と情報応用 (第10回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略とは ・合理性、非合理性、愚直、 ・技術者の評価とモチベーション、デュアルラダー <p>経営組織と技術開発 (第11回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術人材マネジメント ・技術者評価とモチベーション ・デュアルラダー <p>経営組織と日本型経営 (第12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「組織能力と製品アーキテクチャ」 ・技術担当者のメンタリティ ・西洋との対比 <p>デジタル技術とテクノヘゲモニー (第13回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『テクノヘゲモニー - 国は技術で興り、滅びる』 <p>まとめ(技術者の倫理観 / Q&A)(第14回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学における不正行為 ・Q&A
<p>〔履修要件〕</p> <p>特になし。ただし、経営学(経営戦略、経営組織、マーケティングなど)の基礎的な知識があれば望ましい。</p>
<p>〔成績評価の方法・観点及び達成度〕</p> <p>下記の順に考慮して決定する予定。</p> <p>① 前半終りの演習(小テスト形式) 30%程度</p> <p>② 期末レポート 30%程度</p> <p>③ 授業への貢献(議論への積極的参加・発言) 40%程度</p>
<p>〔教科書〕</p> <p>前川佳一『パズル理論』(白桃書房)ISBN:978-4561266136</p> <p>その他授業で用いるものは、適宜配布する。</p> <p>下記「参考文献」参照。</p>
<p>〔参考書等〕</p> <p>一橋大学イノベーション研究センター『イノベーション・マネジメント入門』(日本経済新聞社) ISBN:978-4532132231</p> <p>クレイトン・クリステンセン『イノベーションのジレンマ: 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』(翔泳社) ISBN:978-4798100234</p>
<p>〔授業外学修(予習・復習)等〕</p> <p>2 週目以降、次の週までの課題として文献や記事などを配布し、かつそれに伴う考察テーマを示す。受講者は課題を熟読し、テーマに沿って自分の考えを整理して授業に臨むこと。この姿勢がなければ、学習効果は半減する。</p>
<p>〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕</p> <p>開講時限の前後の1時間を原則としてオフィスアワーとする。その他の時間についてはメールによるアポイントを経ることとする。</p>